

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	つばさ学園改修事業			会計	款	項	目	大	小
				01	03	02	07	02	59
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	児童発達支援センター				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	長谷川 聖二				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	概ね2歳から18歳未満で、成長や発達に心配がある児童及びその保護者。	意図	利用者の増加に伴い駐車場の拡充を行うことで利用者の利便性を図る。
事業内容	平成27年度から児童発達支援センターとして組織改編をしたことに伴い、分散されている施設の集約化を図るため、平成27年度から平成28年度まで増改築工事を行い、平成29年3月に増改築を完成させた。平成29年度は、緊急時の通路確保及び利用者の駐車場の確保を行い、平成30年度にはつばさ学園の4つある教室の床暖房を整備し利便性や快適性を向上させる。			
事業開始から現在までの状況変化	平成28年度に分散されていた施設（幼児ことばの相談室）の集約化を図り新築棟の建築等、建物の設備を充実させた。平成29年度には集約化に伴う利用者の増加及び利用者のための避難通路の確保に努めるべく駐車場の整備を行い、平成30年度にはつばさ学園の4教室に床暖房を整備を行う。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	工事進捗率	100	100	100	%	→→	総事業費
②								
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 床暖房の整備に当たり、休園することなく床暖房を整備するため、つばさ学園夏休み期間に工期を設定した。このことで、利用者負担をかけることなく整備を実施できた。また、園児にとって、つばさ学園での活動の快適性を向上させた。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		92,846,304	5,296,320	6,266,000				
事業費(b)(円)		82,548,804	5,296,320	2,970,000				
うち一般財源			797,320					
職員給与と費(c)(円)		10,297,500		3,296,000				
人役・職員(人)		1.50		0.50				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	C 必要性は低下すると思われる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	VII 終了（事業を終了すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	障害児、未歩行児、体温調節が苦手な園児の健康面に配慮するため、つばさ学園の4教室に床暖房を整備する必要がある。	③取組における課題(Check)	工事による休園をしないよう夏休み期間を利用し工期を設定する。このことから早急に準備を行う必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	つばさ学園の4教室に床暖房を整備し、園児が快適につばさ園で活動できるようになった。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	予定していた工事をすべて実施したことから、当該事業は今年度で終了する。